

章	頁	箇所(行・図表番号)	誤	正
1	5	下から4行目	死者総数1,563人…負傷者総数6,309人	死者総数 1,452 人…負傷者総数 5,999 人
1	11	下から2行目	32人が死亡	33 人が死亡
1	19	1行目	(図1-16) ¹²⁾ 。	(図1-16) ¹⁴⁾ 。
1	19	3行目	1-8に示す ¹³⁾ 。	1-8に示す ¹⁵⁾ 。
2	31	最下行	体積%	体積分率[%]
2	39	4行目	最大火炎高さ	間欠(最高)火炎高さ
2	42	13, 17, 19, 20, 27行目(空白行はカウントせず)	盛期火災	火災盛期
2	46	12行目	静圧	床面高さでの静圧
3	62	下から7行目	約30度である ⁶⁾ 。	約30度である ⁵⁾ 。
3	67	表3-2	タイトルの文献番号 15)	タイトルの文献番号 17)
3	67	表3-3	タイトルの文献番号 15)	タイトルの文献番号 3)
3	67	11行目	動揺を引き起こす ¹³⁾ ため、	動揺を引き起こす ¹⁹⁾ ため、
3	70	4行目	を必要とする ²³⁾ 。	を必要とする ⁶⁾ 。
4	93	2行目	図4-10	図4-11
5	114	1行目	即座に転倒できるように蓄電池により	即座に 蓄電池 により
5	117	(16の3)項	建築物の地階(で	建築物の地階((16の2)項に掲げるものの各階を除く)で
6	131	式(6-6)	$m_s = \frac{2}{3} \alpha \left(\frac{BH^{3/2}}{2} \right) \sqrt{g \rho_a} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g} \approx 0.86 BH^{3/2} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g}$	$m_s = \frac{2}{3} \alpha \left(\frac{BH^{3/2}}{2} \right) \sqrt{g \rho_a} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g} \approx 15.0 \cdot BH^{3/2} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g}$
6	132	式(6-7)	$m_s \approx 2.43 BH^{3/2} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g}$	$m_s \approx 42.4 \cdot BH^{3/2} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g}$
6	132	式(6-8)	$m_s \approx 0.86 A_w \sqrt{H} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g}$	$m_s \approx 15.0 \cdot A_w \sqrt{H} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g}$
6	132	式(6-9)	$V_s = \frac{60}{A_{FLR}} \left(\frac{m_s}{\rho_g} \right) \approx 60 \times 0.86 \times \sqrt{0.8} \frac{A_w}{A_{FLR}} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g} \frac{1}{\rho_g} \approx \frac{46.2}{353} \frac{A_w}{A_{FLR}} \sqrt{T_g - T_a}$	$V_s = \frac{60}{A_{FLR}} \left(\frac{m_s}{\rho_g} \right) \approx \frac{60}{A_{FLR}} \times \left(15.0 \cdot A_w \sqrt{0.8} \frac{\sqrt{T_g - T_a}}{T_g} \frac{1}{\rho_g} \right) \approx \frac{805}{353 A_{FLR}} \sqrt{T_g - T_a}$
6	132	式(6-10)	$V_s = \frac{60}{A_{FLR}} \left(\frac{m_s}{\rho_g} \right) \approx \frac{46.2}{353} \frac{1}{50} \sqrt{T_g - T_a} \approx 0.0026 \sqrt{T_g - T_a}$	$V_s = \frac{60}{A_{FLR}} \left(\frac{m_s}{\rho_g} \right) \approx \frac{805}{353} \frac{1}{50} \sqrt{T_g - T_a} \approx 0.046 \sqrt{T_g - T_a}$
6	132	下から12~14行目	これは、温度上昇値(T _g -T _a)が100℃とすればV _s =0.026(m ³ /min/m ²)、400℃としてもV _s =0.052(m ³ /min/m ²)に過ぎないので、機械排煙の排煙基準V _s =1.0(m ³ /min/m ²)とは非常に大きな差がある。	これは、温度上昇値(T _g -T _a)が 400℃ならV_s=0.92(m³/min/m²)となるので機械排煙の排煙基準V_s=1.0(m³/min/m²)とほぼ同じであるが、100℃ならV_s=0.46(m³/min/m²)なのでかなりの差がある。
6	153	下から7行目	が大きくなり、排煙口位置での圧力差が大きくなることも容易に分る。	が大きくなり、排煙口位置での圧力差が 小さくなる ことも容易に分る。
6	155	下から10行目	避難覚知	火災覚知
6	156	下から7行目	図2-20	図A-1
7	170	2行目	の安全部分に行える計画	の安全部分に 避難 を行える計画
7	172	下から13~16行目	防災計画指針 ⁵⁾ では、その条件を居室の床面積が200m ² 未満で人口密度が0.5人/m ² の場合としている。これは室内人数では100人ということになるが、欧米の法規を参考にすれば、室内人数が起床状態で使用される室で50人未満、就寝用途の室で8人未満程度が平均的なところなので、かなり差が大きい。	防災計画指針 ⁵⁾ では、その条件を居室の床面積を 200m²未満 としている。人口密度については特に触れていないが、もし物販用途にも適用して0.5人/m ² の場合とすれば室内人数では 100人未満 となる。これは欧米の法規を参考にすれば、室内人数が起床状態で使用される室で50人未満、就寝用途の室で8人未満程度が平均的なところなので、かなり差が大きい。
7	181	6行目	参考文献番号:7)	参考文献番号: 8)
7	182	下から4行目	居室の最大も高距離	居室の最大 歩 行距離
7	184	図7-12 記号凡例	出口流動係数	出口流動 人数(人/秒)
7	214	2行目	図7-37	図7-39
8	229	最下行	H414X405X18X28	H-414X405X18X28
8	244	参考文献5)	鋼日本建築学会:構造耐火設計指針、2017.6	日本建築学会:鋼構造耐火設計指針、2017.6
9	261	最下行	図9-17に放水口のイラスト、	図9-17に 送 水口のイラスト
9	261	最下行	図9-18に送水口のイラスト、	図9-18に 放 水口のイラスト
9	262	図9-17	連結送水管の放水口	連結送水管の 送 水口
9	262	図9-18	連結送水管の送水口	連結送水管の 放 水口
9	263	1行目	図9-21(3)	図9-21(2)
10	273	下から3行目	消防法規則	消防法 施 行規則